

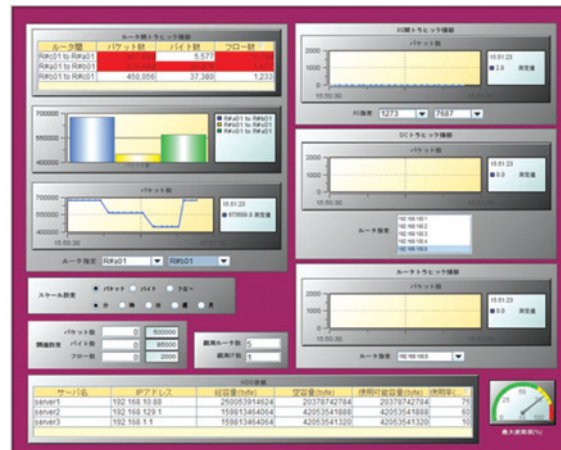
■ ネットワーク・トラフィック状況とそのデータを収集するコレクタのマシン稼働状況を RTView で可視化して監視し、リアルタイムにアラート

NTT アドバンステクノロジー株式会社様 ご開発事例より

NTT グループの技術的中核である NTT アドバンステクノロジー株式会社 (<http://www.ntt-at.co.jp/>) 様は、NTT 研究所をはじめとした世界の先進技術と連携し、顧客や市場、社会のニーズをとらえた価値に変換する「Integrated-Value Provider」です。事業範囲は幅広く、ネットワークやシステムなどの IT 基盤（インフラ）を運用管理するためのさまざまなプロダクトやソリューションも提供されています。

同社様において、米 SL 社の RTView を使用し、短期間で既存のリアルタイム・データを可視化して監視できるようにされた事例を、ご紹介いたします。

たとえば、各拠点に設置された多数の基幹系ルータのネットワーク・トラフィック・フロー情報を収集しているコレクタからのトラフィック状況と、そのコレクタが運用されているサーバ・マシンのディスク・スペース、メモリ使用量、CPU 使用率などの稼働状態を、RTView でリアルタイムに可視化して表示し、アラートを生成します。



監視画面では、データセンタやルータごとに、パケット/バイト/フローの単位で選択して現在のトラフィック状況を視覚的に確認することができ、またボトルネックなどの状態を赤くアラート表示するとともに、関係者にメールを自動的に送信します。

JMS や SQL などの標準的なデータ接続アダプタを持っている RTView では、クリック&ポイントのビルダーを使って、棒グラフや折れ線グラフ、テーブルなどのオブジェクトに既存のデータを接続設定して画面構成し、アラートもしきい値や対応アクションを対話的にカスタム設定するだけで、既存の監視データを簡単に可視化できます。

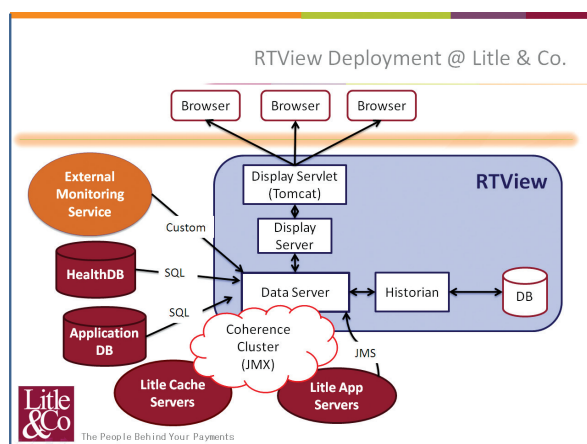
既存の複数性能指標データを RTView でリアルタイムに集約、一元可視化して監視

「米 Little & Co. 社様のケース・スタディ」ライブ・ウェブ 세미나より

去る6月21日に米 SL 本社が主催したライブ・ウェブセミナーで、最大手のインターネット小売業やオンライン・ブランドの多くに支払管理サービスを提供する Little & Co. 様に、RTView for APM を適用した事例をご講演いただきました。

同社様が監視されている支払い業務管理システムは、数千店の毎日数百万件におよぶ支払いトランザクションをリアルタイムならびにバッチ処理しており、24時間365日の高いアップタイム条件で稼働しています。

JMX によるアプリケーション・トランザクション、JMS によるアプリケーション・サーバ、SQL によるアプリケーション・データベースそれぞれの性能指標データ、JMX による Oracle Coherence 分散キャッシング・システムのキャッシュ状況、外部サービスによる性能監視データを、SL 社の RTView でリアルタイムに集約して一元可視化、イベントの相関、ビジネス・インパクトの査定、履歴化を実現されました。



さまざまな性能指標の生データが膨大にあったものの容易にアクセスできず、対応アクションを取れる情報として集約されていなかったのが、同社様での課題でした。また、時間と深い専門知識を要する、マニュアルでのデータベース・クエリ、ログ・マイニング、プロセス毎の JMX コンソールでの監視には限界がありました。

SL 社が主催したライブ・ウェブセミナーでは、性能計測を実装したアプリケーションからのトランザクション・データは、Oracle Coherence キャッシュに格納し、Little 社のサービスが期待通りの性能を発揮しているかを判定、トラブルシューティング、解決すべき真の問題原因がどこにあるかの特定などで、RTView を使っていかにオペレーションを正確に可視化して監視することに成功したかをお話いただきました。

☆ライブ・ウェブセミナーの録画ビデオ（英語）：<http://sl.com/.videos/LittleCaseStudyWebinar6.20.12.wmv>

「ユーザ・メソッド」と「変数バインディング」サンプル集からのデモ録画ビデオ2種をホームページに追加

SL-GMS Developer for .NET 製品では、各種機能の具体的な使い方を示す多数のサンプルと解説を提供しており、実際のアプリケーション開発で活用していただけるようになっています。それらの中から、「ユーザ・メソッド」と「変数バインディング」サンプルのデモを録画したビデオをホームページに追加しました。

「ユーザ・メソッド」サンプルは、Visual Studio .NET がサポートする任意の言語で書かれたメソッドを、SL-GMS Developer for .NET のグラフィック・オブジェクトに追加する方法を示すものです。SL-GMS オブジェクト自身の内部からのイベントの振る舞いをカプセル化したい場合や、データ変化時に SL-GMS グラフィック・オブジェクトがどのように振る舞うかの定義を、標準の動的属性によってではなく、Visual Studio .NET による独自のプログラミングで制御したい場合に、有効です。

サンプルでは、SL-GMS 動的属性からのユーザ定義入出力メソッドの呼び出し方、入力オブジェクトの振る舞いを定義するユーザ定義入出力メソッドの作り方、データ変化時に SL-GMS オブジェクトのグラフィックな振る舞いを定義するためのユーザ定義入出力メソッドの作り方を、解説します。

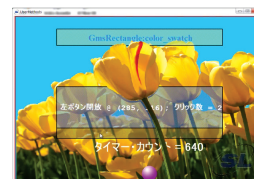
☆「ユーザ・メソッド」デモ・ビデオ(新)(0分58秒):

<http://www.sl-j.co.jp/demovideo/dotnet/usermethods/usermethods.html>

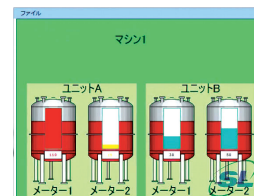
こちらのデモでは、SL-GMS Developer for .NET 新バージョン 4.1b で追加された「透過オブジェクト」を使用しています。

☆SL Japan オンライン・ニュース 2012 年 9 月号でご紹介している「変数バインディング」デモ・ビデオ(新)(2分4秒)

<http://www.sl-j.co.jp/demovideo/dotnet/variablebinding/variablebinding.html>



「ユーザ・メソッド」サンプル・デモ・ビデオ(新)



「変数バインディング」サンプル・デモ・ビデオ(新)

「スマートグリッド EXPO」、「富士通フォーラム 2012」に出展されたエネルギー・マネジメント・ソリューションの可視化と監視デモで協力

SL ジャパンは、去る5月(東京)、7月(大阪)、8月(名古屋)に「Reshaping ICT - Reshaping Business」をテーマに開催された「富士通フォーラム 2012」のデモ展示で協力しました。

今年2月に富士通(株)様が出展された「スマートグリッド EXPO」@東京ビッグサイトに続き、「富士通フォーラム 2012」でのエネルギー・マネジメント・ソリューションの可視化と監視デモで、SL 社の RTView が使用されました。

RTView は、スマートシティやスマートグリッドなどの分野で必要とされる CEP (複合イベント処理) エンジンのビッグデータとダイレクトに接続した、インメモリで高速な可視化と監視を得意としています。



【関連サイト】

- 「富士通フォーラム 2012」速報レポートのサイト: <https://forum.fujitsu.com/2012/tokyo/report/>
- 「富士通ミッションクリティカルシステムズが、オンプレミス(自社運用)型ビッグデータ向けプラットフォーム・ソリューションの開発で、SL 社の RTView を採用」(SL ジャパンのプレスリリース):
http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2012/sl_j_press_120427.shtml
富士通株式会社様のプレスリリース・サイト: <http://pr.fujitsu.com/jp/news/2012/07/10-1.html?nw=pr>
株式会社富士通ミッションクリティカルシステムズ様のプレスリリース・サイト:
<http://jp.fujitsu.com/group/fmcs/downloads/pressrelease/20120710SystemSolutionForEBA.pdf>

イベント・セミナーのご案内

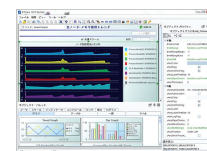
Application Performance 2012 @ 東京ミッドタウン・ホールA(ミッドタウン・イースト B1F) <http://www.f2ff.jp/ap/2012/>

★スポンサー講演: 2012年11月13日(火) 無料・事前登録制(10月初旬頃より)



ログファイルやアプリケーション・サーバからの性能データを可視化して監視
～ ビッグデータ運用のスマート・モニタリングの構築事例とデモ ～

株式会社 SL ジャパン 代表取締役社長 羽島 良重



既存のログファイル、監視ツール、アプリケーション・サーバなどで公開されている『任意』の性能データに『直接』接続して『インメモリ』で集約する、リアルタイムな可視化と監視について、ビッグデータ運用監視への適用などの事例(国内外大手)とデモを交えて解説。SL 社の RTView for APM では、性能データの集約と永続化(ヒストリアン)、ダッシュボード画面、フィルタリング、アラートと対応処理を、ポイント&クリックのビルダーで『カスタム構築』し、サービスからアプリケーション、インフラ・コンポーネントへとドリルダウン分析できます。

Real-Time Visibility



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

年3回発行 2012年9月26日発行 通巻43号

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。